

えひめの伝統工芸活性化支援事業

－ えひめの伝統工芸活性化支援事業（R6） －

愛媛県産業技術研究所 窯業技術センター

ライフスタイルの変化などにより、国内需要が縮小する中、約250年の歴史を有する砥部焼を今後も愛媛を代表する伝統産業として守り育てていくため、砥部焼の価値を高め、差別化を図る取組みを行いました。

1. 手作りの価値を守るための技術力向上支援

①他産地作家との技術交流会を開催

自然の水打粘土と透明釉を使い、温度を5回変えて焼成する焼戻しという技法で器を制作している佐藤弘人氏と九谷焼の伝統的な手法と現代的な幾何紋を組み合わせ独自の美意識で描いた“かさね絵”作品を制作している多田幸史氏を招聘し、技術交流会を行いました。



②販売力強化のためのワークショップ開催

砥部焼窯元の魅せる技術向上を目的に商品陳列に関するワークショップの開催と臨店指導を実施しました。



before

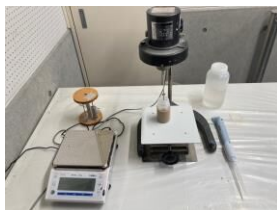


after

2. 生産の効率化に向けた体制構築

①生産性の高い原料配合条件の確立

砥部焼鑄込み用坏土である11号坏土と3等天草について、配合比率及び水ガラスの添加量等の検討を行った結果、砥部陶石を基本とした鑄込み用坏土の開発ができました。



②石膏型・素焼事業者創設に向けた支援

坏土製造会社を經營するとともに、有田町内の有田生地工場で生地（素焼き）の製造を行っており、「坏土」「石膏型」「素焼き」製造のノウハウを豊富に有している浏野和弘氏を招聘し、窯元の指導を実施しました。



本事業で取組んだ内容を産地内で横展開し、業界の底上げを行っていくことで、地域の伝統産業の更なる振興を図り、地域経済の活性化が期待できます。

本事業は、令和6年度えひめの伝統工芸活性化支援事業により実施しました。